

TOKYO JC NEWS

~Let's Tokyo JC 's Hot Communication!~



JC宣言
日本の青年会議所は
混沌という未知の可能性を切り拓き
個人の自立性と社会の公共性が
生き生きと協和する確かな時代を築くために
率先して行動することを宣言する

綱領
われわれJAYCEEは
社会的・国家的・国際的な責任を自覚し
志を同じうする者、相集い、力を合わせ
青年としての英知と情熱をもって
明るい豊かな社会を築き上げよう

今、動き出す「志民社会」

— Jayceeから起こす、限りない推進力(ちから)を東京から —

2002.9.15
vol.394

VISUAL CONTENTS



理事長対談

スペシャルオリンピックス日本 理事長細川佳代子氏2



7月例会レポート

「ユニバーサルデザイン社会の実現に向けて」.....4



2003年度理事長決定

(社)東京青年会議所 2003年度理事長平将明君5



事業レポート・PR

各地区委員会レポート・PR.....6



ちょっとおじゃまします

9月例会プロジェクト会議.....11



第18わんぱく相撲全国大会

結果速報.....16

contents

- 5 東京 JC 10月例会案内
- 11 目黒区長選挙公開討論会 案内
【LOM便り】社団法人沼田青年会議所
- 12 出向者レポート 日本 JC 国際アカデミー委員会
気になる一冊
- 13 委員会便り
- 15 TWOWAY COMMUNICATION
 - ・ Welcome to Tokyo JC
 - ・ 今月のフレッシュマン
 - JCの魅力、再発見!

www.tokyo-jc.or.jp

理事長対談

平成14年8月20日(火)スペシャルオリンピックス日本事務所
で

出席者：細川佳代子スペシャルオリンピックス日本理事長



知的障害者のスポーツ競技会・スペシャルオリンピックス、その日本代表を務めるのが細川護熙元首相夫人・細川佳代子さん。第3回理事長対談は、第3回夏季ナショナル

ゲーム(8/15-18 東京)を成功裡に終え、2005年の冬季ワールドゲーム長野に向けて精力的に活動を開始した細川夫人を霞が関の事務所に訪ねた。



細川佳代子氏のプロフィール

神奈川県藤沢市出身
1966年 上智大学英文科卒業
1966年4月～70年10月 日本企業の欧州駐在員として勤務
1971年9月 細川護熙氏と結婚 27年間夫の政治活動を支える一方、種々のボランティア活動に取組み今日にいたる。1男2女の母。
1991年頃～ スペシャルオリンピックスの活動を開始
1994年11月 「スペシャルオリンピックス日本」設立、2001年5月に内閣府より特定非営利活動法人の認証を受ける。
現在、特定非営利活動法人スペシャルオリンピックス日本理事長、2005年スペシャルオリンピックス冬季大会会長、「世界の子どもにワクチンを」日本委員会代表、「able」の会代表
▶http://www.specialolympics-nippon.gr.jp/

西野理事長 初めにスペシャルオリンピックスの成り立ちをお聞かせいただけますか。

細川理事長 発祥の地はアメリカで、アメリカ国内ではパラリンピックも有名だし、社会的に高く認知されている団体です。

1963年に、ケネディ家のユニスが、お姉さんのローズマリーが知的障害のゆえに隠されていた当時のアメリカ社会を変えねばならないと立ち上がり、障害者やその家族が生きる希望を持てるよう活動を始めました。その勇気ある彼女の行動と理念が、スペシャルオリンピックスの活動の根本にあります。

アメリカは、10年前にADA法という障害者のための法律ができて、障害ゆえに差別されることは禁止になりましたから、その人の自由意思で学校も職業も選んで、当たり前の生活ができる社会をみんなでつくろうとしているわけです。

それに対して日本は、障害者を守ることが先に立って、社会の一構成員としてみんなと一緒に生きていくことが欠けて、隔離してしまったところに大きな間違いがあります。邪魔だから余計だから社会に役に立たないからというある意味では偏見・差別で社会から追いやってしまった。隔離されて触れ合うことがないから、障害者が目の前に来るとどう扱っていいかわからない。また、福祉の社会にある人たちはお互い慰め励まし合って生きている。こういう二つの

社会に分かれてしまっているのです。

西野 偏見をなくしていく意識改革をしなければいけない傍ら、制度としても差別を除外する法的なものをつくってやっていかなければ、この社会は変わっていかないとはいえます。

日本が意識改革をしていくためにはどこが大事になってくると思いますか。

細川 私はこのスペシャルオリンピックスに賭けています。あと5年で絶対変わるといいます。日本人は機が熟すと短時間で変わりますから、それをうまく利用すべきです。あとは、間違った方向にいかないように各自が自覚するよう気をつけることだと思います。

西野 知的発達障害の方と触れ合う交流の機会は持ったほうがいいですね。

細川 そうです。スポーツを通してだったら自然に彼らと触れ合え、本当に理解できます。

西野 JCのわんぱく相撲では「勝つ喜びと負ける悔しさ」を言っていますが、勝つ喜びとか負けた悔しさとかは成長していく過程で非常に大事なことで、特に障害を持たれた方はそういう機会になかなかめぐり合えないから、勝ったときの嬉しさ、喜んだ姿を見たことがない。それをこういうスポーツを通じてというのが大きな理念なのですね。

細川 スポーツを通して人生のあらゆる勉強ができ、成長できます。一人ひとりがその子に合った

炭焼ステーキの贅を識る。

選ばれた良質の三田牛と磨かれた技が創る最高のおもてなしを。

コース料理のご予約はお二人様以上でお申し込み下さい。

「黒毛和牛(肉牛)」と云われる品種の産地、三田(但馬)・近江・松坂などでは、古くから血統による管理を行い、子牛より登録、氏・素性が明記され、血統書により飼育・管理されます。子牛の父・母・両方の祖父母・曾祖父母及び繁殖者が明確に解る仕組みになっております。又品質の高い黒毛和牛は少数頭を一軒当り2～3頭、多い人で10頭程度の飼育と少なく、きめ細やかな愛情を込め、育てられます。値段的には高価ではありますがこの管理された黒毛和牛の肉質を、会社創業以来追求し続けそれに見合う、焼く技術を持っていると自負しております。どうぞ美味しいステーキをお召し上がり下さい。

自然の恵&ステーキは.....

美味さ・技術の追求

「黒毛和牛(肉牛)」と云われる品種の産地、三田(但馬)・近江・松坂などでは、古くから血統による管理を行い、子牛より登録、氏・素性が明記され、血統書により飼育・管理されます。子牛の父・母・両方の祖父母・曾祖父母及び繁殖者が明確に解る仕組みになっております。又品質の高い黒毛和牛は少数頭を一軒当り2～3頭、多い人で10頭程度の飼育と少なく、きめ細やかな愛情を込め、育てられます。値段的には高価ではありますがこの管理された黒毛和牛の肉質を、会社創業以来追求し続けそれに見合う、焼く技術を持っていると自負しております。どうぞ美味しいステーキをお召し上がり下さい。

哥利歐

103(3543)7214 営業時間12:00～23:00
定休日/第2日曜日のみ カード(DN・AX・DC・JCB他)有

炭焼ステーキディナー(9月コース料理)
活大吟貝哥利歐風オランダソース添え
活伊勢ロブスター姿茹で哥利歐風
自家高温燻製サーモンサラダ
炉焼温パン・温野菜
但馬三田牛炭焼ステーキ
自家製ヘルシーケーキ
特製ブレンド布ドリップコーヒー
お一人様¥18,000(税・サ別)

【インフォメーション】
創業19周年記念 特別晩餐会のご案内
期日：平成14年10月26日(土)
平成14年11月16日(土)
特別メニューと銘醸ワインをご用意しております。(要予約)
詳しくはお問い合わせの上、ご確認下さい。

Own Peerless Beef ひとつひとつに個性があるSTEAK

■炭焼 長月(9月)炭焼ステーキディナー
瀬戸内海産真鯛薄造りキーウソース
伊勢湾産活伊勢海老の備長グリエ
深山の男爵サラダ
炉焼温パン・温野菜
特選三田牛炭焼ステーキ
オムレット・スフレ
特製ブレンド布ドリップコーヒー
お一人様¥45,000(税・サ別)

旬の逸品
房州産活鮎の酒蒸しカクテル...¥10,000
伊勢湾産活伊勢海老の備長グリエ...¥7,000
房州産本海松貝の山葵和えカクテル...¥7,000
9月インフォメーション
秋の美食会開催のご案内
期日：平成14年10月12日(土)
平成14年11月23日(土)

特別メニューと銘醸ワインをお楽しみいただけます。
お一人様¥45,000(税・サ別)詳しくはお問い合わせ下さい。
本店 新橋田村町
炭焼 炭焼

103(3591)8765 営業時間12:00～23:00
定休日/日曜日・祝日 カード(DN・AX・DC・JCB他)有

御贈答用

本店 新橋田村町 炭焼 謹製三田優秀牛すきやきしゃぶしゃぶ塩焼用に。
又、ローストポーク等。各店にてご予約承ります。

た能力のベストを尽くし頑張ってきたら、その子は勝者だという理念です。障害者は褒められたことも注目されたこともないの。だから、表彰台に乗せてもらって、みんなから「やった」と褒められたら喜ぶし、みんなが「よかったね」と言えば、また頑張ろうと思ひ、初めてその子に自信とか誇りとか自尊心、これから先への気力とか、いまだかつて体験しない感動をアスリート自身が味わう。彼らはひたむきに努力します。

西野 スポーツを通じて偏見をなくす社会をつくっていくことが最終のゴールだと。

細川 弱者も強者も貧乏も金持ちも障害者も健全者もいて、一人ひとり人間としてはみんな平等で、みんな自分らしい人生を歩むことをお互いが認め受け入れ合う、個人がみんな自立して、お互いが助け合う社会をつくらなくてはならない時期にきています。今一番遅れている障害者とか弱者に対する理解や思いやりは交流以外にありません。その一歩がない。一歩踏み込みましたら雪崩現象で変わると思ひます。

西野 そういった意識改革もしながら、制度として変えていかなければいけない。その「制度として」という部分ですが、NPO法人になられたのは1年前で、最初、行政の協力とか地域の協力とかをいただいている中で(旧)厚生省に話をしたら、ちゃんと実績をつけてから来てくださいと言われたそうですが、その辺の行政の対応についてはどう思われますか。

細川 全部が全部そうではないですが、福祉施設や福祉関係のお役所でも疑問に思ひ人がいて、がっかりすることがよくありました。

西野 新しい試みに対して理解を求めめる能力、新しい事を始めようという行動を起こさないところが役所や官僚化の一番悪いところで、社会の流れの先を読んで新しい事を始めなければ、新しい事が根付かない国になってしまうのではないのでしょうか。

細川 日本を変えるのは、国民側・市民にも責任があります。市民・国民が、依存型で頼むことしか考えない。何かにぶつかったときに自分でそれを破って、何とか頑張ろうという挑戦意欲、チャレンジ精神、勇気ある行動を起こすことが欠けています。

西野 意識改革がなければ制度なんか変わらないところですか。

細川 政治、経済、社会といったところで一番大事なのは、一人ひとりの国民・市民が本当に目覚めて、自分が今歴史のどこにいて、日本のどこにいて、今自分は何かができるかと考えて、勇気

を持って行動する。それ以外に何もありません。

西野 何かをしたいと思う人はどんどん出てきて、その受け皿もNPOという形でできていますが、このNPOのあり方についてはどのように思われますか。

細川 これからNPOとかNGOが広がっていくと思いますが、一番のネックは認定NPOになるのが極めて難関だということです。今のNPOは、まだ役所がコントロールして、役所の手先で使われている旧態依然のシステムです。NPOの目的、民間の活力をいかに社会に役立てるかということだったら、足かせになることは役所が早く気づいて撤退すべきです。いい活動をしているところは自由にさせて、役所がどんどんサポートすべきです。

西野 寄付税制であったり補助金であったり寄付行為であったりというところでNPOはどんどんできていますが、それを隠れ蓑にする悪いNPOがいるおかげで、いいNPOに対しての補填がなかなかされないのが現状です。役所は公益性の認定をやりたいがらないから、NPO活動を草の根的にしっかりやっているところは、第三者的な評価の部分でどんどん光が当てられる環境づくりが大事だと思います。

東京青年会議所の11月例会でNPOアワードをしますが、結果的に何等賞をとって賞金幾らと。NPOはお金が必要ですから対価の賞金は大事ですが、そうではなくて、NPOが社会の中で活動しやすい環境づくりの一環として、活動している内容を社会に知らせましょ、それで運営能力であったりプレゼンテーション能力であったりといったことを、この機会に評価という軸を持ちながら何とか達成していくことができないかということと始めているところですが、あちこちでNPOに対して理解者が増えて、それを自ら始めて、制度づくりに転換できるという動きをしていかなければ社会は変わらないと思ひます。

細川 NPOも甘えずにしっかり実績をつくるしかないと思ひますが、大変なエネルギーです。だから、たやすいのは頼ってしまいます。でも、たやすくやったときは、あっという間に消えると思ひます。しっかりやって、いかにしてすばらしい活動をしっかり根付かせるか、それには時間がかかるでしょう。しかし、芽を出し始めたら、黙っていても凄いい勢いで広がっていきます。

西野 今の段階で感触的にはどうですか。

細川 大体予想どおりにいっています。5年後には日本中の人々が知っていると思ひます。日本人みんなが、障害者が目の前にいても自然に



声かけられ、自然に障害者と話ができて、手伝えることは手伝う、障害者と共に生きていく仲間だという仲間意識、同じ人間だという温かい意味で、まなざしという思いやりが自然に日本人の心に落ち着くにはまだ10年はかかるでしょうが、5年もすればそういう世の中にならなくてはならないと気付く人が日本にいっぱいになると思ひます。

西野 今後のNPOで活躍していく方々に向けてエールをお願いします。

細川 エールではなくてお願いですが、青年会議所の幹部の方は1年単位でかわってしまうから継続的に取り組めないのは凄いいネックです。取り組まなければならないテーマは次々にバトンタッチして、引き続きやっていただきたい。日本中が一つになることが大事で、500万人聖火リレーはそれになり得る運動です。人は名もない一市民の情熱・志で感動を受けます。そういう人を一人でも多く増やすことが日本を元気にさせる最大のポイントです。

西野 「今動き出す 志民社会」というスローガンを名刺に書いていながら、細川さんに「情熱とか志を持たなければ社会は何も変わらない」ことを確認させていただきました。細川さんがやられている部分と、我々も福祉という観点で、誰もが過ごしやすい・生活しやすい社会を求めていくために偏見をなくすという共通点があることは間違いのない部分ですので、お互いにNPOという形の中で携わっていただければと思ひます。

スペシャルオリンピックスとは

スペシャルオリンピックスとは、知的発達障害のある人々アスリートが自立と社会参加を目指し、日常的なスポーツプログラムと、その成果の発表の場で競技会を提供する国際的なスポーツ組織です。

1968年にジョセフ・P・ケネディ財団の支援により組織化されたスペシャルオリンピックスとなり、全米から世界へと広がっています。また1988年には国際オリンピック委員会(IOC)からオリンピックの名称使用を正式に認められました。本部はアメリカ・ワシントンDCにあり、現在約80カ国が加盟、125万人のアスリート、100万人を超えるボランティアが活動に参加しています。

適切な指導と励ましがあれば、アスリートたちは少しずつでも確実に上達し、自立への意識を高め成長していきます。参加するボランティアたちもアスリートから多くのものを学びます。スペシャルオリンピックスの名称が複数形で表されているのは、年間を通して様々なプログラムが継続的に行なわれていることを意味します。運営は全てボランティアと善意の寄付によって行なわれてい

ます。

日本では、1980年に「スペシャルオリンピックス日本委員会(JSOC)」が設立され世界大会に選手を派遣していましたが、1992年に解散しました。そうした中、1991年夏の世界大会に熊本から参加した10歳のアスリートと彼女を育てたボランティアコーチが、体操競技で銀メダルを獲得しました。ダウン症と難聴のあるアスリートの快挙は多くの人々の感動を呼び、熊本の地でボランティアの輪が広がり、1993年3月「スペシャルオリンピックス日本(SON)」が設立されました。2001年5月17日、特定非営利活動法人(NPO法人)として認証を受け、21都道府県に地区組織が設立されています。しかし現在全国17地区で登録アスリートは1500名に満たないのが現状です。

スペシャルオリンピックスの競技会では予選落ちはありません。予選はディビジョニングであり、アスリートは全員が決勝に進み全員が表彰台に立ち表彰を受けます。

スペシャルオリンピックスの競技会精神は、以下の言葉に集約されています。

『スペシャルオリンピックスで大切なものは、最も強い体や目を見張らせるような気力ではない、それは各個人のあらゆるハンディに負けない精神である。この精神なしでは勝利のメダルは意味

「ユニバーサルデザイン社会の実現に向けて」

自らの未来は自らの手で 社会保障制度の画期的変革

東京青年会議所7月例会は、「ユニバーサルデザイン社会の実現に向けて - 自らの未来は自らの手で - 社会保障制度の画期的変革」をテーマに、7月11日(木)午後6時20分から京王プラザホテル・エミネンスホールで開催された。

第1部

第1部基調講演はオムロン㈱代表取締役会長・立石信雄氏を講師に招いた。

立石氏は「現在の日本にはグローバリゼーションの加速、IT革命の進展、知識社会の到来、少子高齢化の進展、環境問題の深刻化という5つのメガトレンドがあると、この5大変革を踏まえて 企業ミッションと企業アイデンティティの再確立、スピード経営とコーポレートガバナンスの改革、選択と集中、戦略的アライアンスとアウトソーシング、新市場創出とベンチャー精神、顧客価値創造、の6つの経営課題に取り組むべきだと述べた。

立石氏は「企業の公器性」に視点を置いたオムロンの企業理念や、誰もが利用できる製品・サービスや生活環境の創造を目指すユニバーサルデザイン社会実現のための経営課題などに関し、スライドを使いながら30分にわたって講演した。



基調講演・オムロン㈱代表取締役会長 立石信雄氏



第2部・パネルディスカッション

第2部

第2部パネルディスカッションは、パネリストに衆議院議員・鴨下一郎氏、グッドウィルグループ㈱代表取締役会長・折口雅博氏、内閣府経済社会総合研究所総括政策研究官・喜多村悦史氏、コーディネーターにさわやか福祉財団社会参加システム推進グループリーダー・蒲田尚史氏の顔ぶれで行なわれた。

喜多村氏は行政の立場から「少子高齢化を踏まえた医療や年金制度の見直しが求められている」とし、鴨下氏は「高齢者医療は限界にきている。互助の精神と自立と自律が重要だ」と述べた。折口氏は介護ビジネスを立ち上げた起業家の立場から「世の中に役立つ、自分が成長できる、自己実現できると思

う目標を見つけたら信念と執念を持ってやり遂げてほしい」と語り、ユニバーサルデザイン社会の実現に向け、国家の制度改革と国民の意識改革を推進し、介護保険、医療保険、年金等の社会保障制度の新たな改革へ踏み出すチャレンジの方途を探った。

会場には招待された福祉関係のNPO 80団体の代表も出席、各講師の意見をメモを取りながら熱心に聞き入っていた。

例会終了後、平将明次年度理事長の所信発表が行われ、併せて次年度副理事長、専務理事が紹介された。

詳細はホームページでご確認ください。
<http://www.tokyo-jc.or.jp/>



2003年度
理事長所信表明

～(社)東京青年会議所10月例会案内～
「今、教育の原点を問いただす」
 ～社会の必要性から見た教育とは～

東京青年会議所10月例会は、教育政策委員会主催で「今、教育の原点を問いただす～社会の必要性から見た教育とは～」をテーマに次の通り開催される。

第1部では「教育の原点」と題して梅沢氏が教育の目標、自由と責任について、規律教育について講演。第2部では各地区委員会の教育連携事業をビデオで紹介しパネルディスカッションへの導入とする。第3部では元教育改革国民会議委員に登壇願ひ、教育改革を問い直すと共に「責任ある大人はどうあるべきか」の答えを探る。

10月例会
 「今、教育の原点を問いただす
 ～社会の必要性から見た教育とは～」
 2002年10月9日(水)午後6時30分開会
 京王プラザホテル「エミネンスホール」(TEL03-3344-0111)

- 講師
- ・第1部 JCプレゼンテーション
 - ・第2部 基調講演
 学校法人日本航空学園理事長 梅沢重雄氏
 - ・第3部 パネルディスカッション
 日本ガーディアンエンジニアリング理事長小田啓二氏
 ジャーナリスト大宅映子氏
 中学校教諭河上亮一氏
 コーディネーター外山一宏教育政策担当顧問



梅沢氏



小田氏



大宅氏



河上氏



外山君

東京青年会議所2003年度理事長決まる 平 将明君が当選



社団法人東京青年会議所2003年度理事長は、平将明君(本年度副理事長)に決定した。

次年度理事長立候補届出は、7月1日正午に締め切られたが、立候補届出は平君一人であったため、選挙管理委員会(村田浩敏委員長)は、同日正午から事務局会議室で委員会を開催、同君について資格審

査の結果、適格と認めた。村田委員長は、「理事長選挙に関する規則」第14条、15条により次年度理事長当選人として確定した旨を告示すると共に、「選管第4号」で全会員に通知した。正式には11月の定時総会の承認を得て、2003年度東京青年会議所(第54代)理事長に就任する。

平 将明(たいら まさあき)

生年月日/昭和42年2月21日 本籍/東京都江戸川区篠崎町2-403-5
 自宅住所/〒133-0061東京都江戸川区北篠崎2-15-15 電話/03-5243-2748
 勤務先及び役職/㈱山邦代表取締役社長
 勤務先住所/〒143-0001東京都大田区東海3-2-6 電話/03-5492-3122
 主たる学歴/1989年3月 早稲田大学法学部卒業
 職歴/1989年4月ダイヤモンド観光㈱入社、89年12月同社退社、90年1月㈱日税不動産情報センター入社、91年7月同社退社、91年8月東京青果㈱入社(研修)91年10月同社退社、91年11月山邦入社、96年11月同社代表取締役社長就任、現在に至る

青年会議所における主な略歴

東京JC/1996年2月入会、東京都政策委員、大田区委員、97年大田区委員、98年大田区委員、国際ネットワーク委員、行政改革推進室書記幹事、99年大田区副委員長、事業推進特別委員、発信特別委員、2000年大田区委員、国際政策委員、01年政策担当理事(国際)02年副理事長
 JCI・日本JC等/1997年日本JC業種別部会運営会議委員、2002年日本JC活力ある経済システム創造委員

2003年度4副理事長決まる

専務理事には谷田泰君

東京青年会議所平将明次年度理事長は、「理事及び監事選任に関する規則」第4条により、次年度副理事長として、澁澤善武、関賢司、外山一宏、古谷真一郎の4君を、また、専務理事として谷田泰君を指名した。各君の略歴は次のとおり(生年月日、勤務先、役職、住所、電話、本年度役職、入会年月)

次年度副理事長



澁澤善武君
 1964年12月10日 東邦自動車㈱代表取締役
 大田区南蒲田2-4-15 5703-8801 経済政策担当理事 1993年5月



関賢司君
 1965年1月26日 ㈱プラン建設専務取締役
 練馬区北町8-37-18 3931-6890 総合政策会議議長 1990年3月



外山一宏君
 1965年5月2日 ㈱新橋商会コーポレーション代表取締役 港区新橋6-9-2 3438-1755
 教育政策担当理事 1997年4月



古谷真一郎君
 1968年8月22日 ㈱ガル二取締役社長 渋谷区恵比寿西1-14-9プラッサムビル3F 5784-3675 例会特別委員会委員長 1996年4月

次年度専務理事



谷田 泰君
 1964年10月26日 ㈱タニタハウジングウエ
 ア取締役営業本部長 板橋区東坂下2-8-1
 3968-1455 副理事長 1997年1月

揚原安磨君(福井)に内定

2003年度日本JC会頭

(社)日本青年会議所2003年度会頭(第52代)は、本年度監事・揚原安磨君に内定した。これは、7月5日締め切られた立候補届出が同君一名だったため資格審査の結果、当選が決まったもの。



揚原安磨君
 1963年4月2日生れ、東京大学工学部卒業、87年日本IBM入社、92年江守商事㈱入社 現在同社取締役(福井県福井市毛矢1-6-23 TEL0776-36-6453)
 (JC歴)1993年福井JC入会、99年理事長、2000年直前理事長、福井ブロック協議会会長、01年顧問、日本JC元氣あふれる社会起業家育成グループ担当常任理事

2003年度会長に 橋祐介君

関東地区協議会

(社)日本青年会議所関東地区協議会の2003年度会長は、本年度埼玉ブロック協議会会長・橋祐介君(社)にだま青年会議所に決定した。
 関東地区協議会会長選出管理委員会は6月26日、

立候補届を締め切ったが立候補者が 橋君1名だったため、資格審査の結果届出を受理、7月7日の第2回委員会会議所の承認を得て、次年度関東地区協議会会長に決定した。



橋祐介君
 1964年5月20日生れ38歳、90年4月ポール・スミス大学卒、埼玉グランドホテル㈱専務取締役(〒367-0041埼玉県本庄市駅南2-2-1 TEL0495-21-2111)

(JC歴)1992年だまJC入会、98年理事長、99年直前理事長、2000年埼玉ブロック副会長、01年同LOM支援特別会議議長、02年同会長

2003年度会長は内山俊介君(清瀬)

東京ブロック協議会

東京ブロック協議会2003年度会長は同協議会副会長・内山俊介君に決定した。これは7月4日に閉めきった立候補届出が1名も無く、会長選出管理委員会は同協議会役員会に推薦を一任、役員会で協議の上、内山君を次年度会長に推薦したもの。7月22日に開催された第5回委員会会議所の承認を得て第32代会長に決定した。



内山俊介君
 1963年4月28日生れ38歳、東京スクールオブビジネス卒、(有)有堂専務取締役(〒204-0021清瀬市元町2-21-21 TEL0424-93-2343)
 (JC歴)1991年清瀬JC入会、2001年理事長、02年直前理事長、東京ブロック副会長

中央区 「第3回 自然とふれあおうわんぱくKIDS！ in宇佐美学園」 -レポート-

開催日：8月8日(木)～8月11日(日)
場所：静岡県伊東市宇佐美 中央区立宇佐美学園



宇佐美学園を利用し2回目となる今回は、中央区内の小学校3年生から6年生までの児童80名を募集しました。予想以上の200名を超える応募があり、私達への期待の高さが窺い知れた思いでした。

初日は小田原城で小田原提灯と寄木細工の作成をしました。小田原市観光課・小田原

JCのご協力により、地元ボランティア20名に指導して頂きました。大人でも難しい本格的な提灯づくりにあきらめず最後まで取り組む児童の姿が印象的でした。

2日目は大仁農場での野菜収穫を行いました。収穫したピーマン等をサイズに分け、出荷用に箱詰し、持ち帰って翌日のカレーコンテストの材料にしました。獲ったばかりのピーマンを食べ『あまい!!』と叫んでいたピーマン嫌いの児童もいました。

3日目は早朝5時に起き、熱海JCのご協力により網代魚市場で水揚げの見学をしました。その後学園にもどり、水揚げされたばかりの魚で干物を作りました。地元の魚屋さんに指導して頂きながら、包丁すら持ったことのない児童が、慣れない手つきで魚を開き『もっと魚ちょうだい!!もっと開きたい!!』と

いう声には、児童達の可能性を感じました。夜は班に分かれて収穫した野菜を使ってのカレーコンテストを行いました。各班で話し合い、個性溢れるカレーを作りました。蜂蜜入り、板チョコ入り、メントス入り等々。審査員の皆さん、その後体調は如何ですか?4日間を通して学生ボランティアさん達には大活躍して頂きました。彼等なしでこの事業は決して語れません。児童達とただ遊ぶだけでなく『生きる力を持ったたくましい人』づくりを実践してくれました。

また実行委員長・担当副委員長をはじめメンバーの皆様、本当に4日間お疲れ様でした。でも誰よりも良い体験学習ができたのはメンバーだったのかもしれない。

本事業にご協力いただきました皆様に心より感謝いたします。ありがとうございました。

台東・墨田区 「わんぱくトライアスロン」

-レポート-

今回は、先日行われました台東区委員会と墨田区委員会の共同開催事業であります「わんぱくトライアスロン2002」をご紹介しますと思います。

「わんぱくトライアスロン」は、今から15年前、台東区・墨田区の遊び場の無い子供達に思いやり身体を動かせる機会を与えると共に、桜橋周辺の緑に触れ自然の素晴らしさを体感してもらいたいと言う事から始まりました。競技内容としてはスイム100m、バイク5km、ランニング2.5kmという大人でもかなりハードな運動を小学校4年～6年までの男女に取り組んでもらいます。このトライアスロン競技を通じ、「自己への挑戦」をし、「努力する」とか「思いやり」等社会生活に必要な徳性を学んでもらうことを目的としています。

さて、本年度は9月1日(日)に台東区リバー

サイドスポーツセンター、及び隅田川周辺の公園を競技会場として実施しました。まず、スポーツセンター内の50mプールで往復100m泳いでいい、続いてバイクに乗り台東区側の公園及び公道を5km走ります。最後に桜橋を渡り、墨田区側の側道を経由し台東区側に戻ってラストはスポーツセンターの陸上競技場を1周しゴールです。参加生徒数は700名を超え、保護者・ボランティアを合わせますと3,000人近い大事業になりました。

参加した子供達の中には、途中であきらめ歩き始めてしまう子もいましたが、先にゴールした子供達から声援を受けると最後の力を振り絞ってまた走りだします。また、ころんで怪我をしても気にすることなく、さっさと起き上がった走り出す元気な子もいました。結果としてほとんどの生徒が完走し、我々スタッフをはじめ

めとして参加者全員に大きな感動を与えてくれました。子供達も自分の体力の限界への挑戦と、自分以外の参加者への思いやりと感謝の気持ちを培ってくれたことと思います。

来年も、是非子供たちの一生懸命な姿とさわやかな笑顔を見られる様、大会運営に努力して行きたいと思ひます。

(社)東京青年会議所

台東区委員会実行委員長 島村 益彬
墨田区委員会実行委員長 園部 昌也



新宿区 「わんぱくベンチャー2002」アクションプラン

-レポート-

本年、夏休みの真っ只中である8月10日(土)11日(日)の両日において「わんぱくベンチャー2002」アクションプランを実施いたしました。新宿区内中学生14名、PTA代表5名の計19名、4チーム編成をもって開催されました。10日(土)には午前9時より各チームごとに分かれ自分達が自らの発想と企画により商品を作成いたしました。各自2,000円の出資金を出し、JC側から10,000円の融資を行いそれを元手に資材の調達をしました。全体予算の中から販売促進グッズもこの予算の中から拠出しました。参加者はのびのびと自分の夢を実現するべく商品の作成にあたっていました。本年はJC側からのチームリーダーの役割を強化し、実際の運営はチームリーダーが直接参加者と触れ合いながら進めました。11日(日)は午前中、販促グッズを作成し、メンバーより商品を販売する

にあたっての接客マナーのレクチャーを受け、新宿高野での販売実践に臨みました。夏休みの歩行者天国での販売は参加者の予想を大きく裏切り販売は苦戦し大きな声を張り上げ一生懸命販売をしていました。2時間に及ぶ販売はアツという間に過ぎ去り、残念ながら完売を迎えたチームはありませんでしたが、参加者は「商い」の難しさや苦しさを身をもって体験できた事と思っております。販売が終わり室内会場に戻り決算を行いました。子供達は自分達の結果を真剣に話し合い何かを感じ、持って帰ってくれたものと信じております。

また、9月18日(水)には本事業のひとつの締めくくりであるフォーラムを四谷区民ホールにて新宿区教育委員会と共

催により開催します。「地域の教育力フォーラム」と題して、にしがはちだい先生の基調講演を中心に開催を致します。是非とも皆様のご参加をお待ちしております。



東京青年会議所千代田区委員会主催のシンポジウム「真の自立国家とは！ - 日本の歩むべき道」は、メンバー、一般都民、来賓、来訪JCなどおよそ600名が参加して、8月27日午後6時から九段会館で開催された。

冒頭、渡辺洋一郎千代田区委員長が「IT革命等による国際化の大きな流れの中で、日本は自国のアイデンティティー喪失の危機に見舞われている。米国の一人勝ち、中国の台頭、スイスラム社会の勢力拡大の状況を踏まえ、どうしたら日本はしっかりとした歩みを続けていくことができるだろうか」と趣旨説明した。

第1部基調講演は、アサヒビール㈱名誉顧問・中條高德氏が「健全なナショナリズムに基づいた日本の再建について」をテーマに1時間に渡り講演した。

中條氏は、日本の乱れは「この民族は戦争の原理原則をわきまえていない。極めて巧妙な占領政策により日本の魂が骨抜きにされた。世界一の富を得たがこの豊かさが日本を崩している」と3つの原因について語った。「戦争の勝敗は正義とは関係ない。それなのに巧妙な占領政策で全て日本人に罪があると刷り込まれた。憲法も占領下の思想、言論の自由がない状態でGHQ民生局で作ったものだ。豊かさは心の形がきちんと出来ているときにだけ幸せを約束する。今の体たらくでは豊かさはかえって災いになる」と語り、「歴史を振り返り真実を学んでほしい。そこから次に進む道が見えてくる。緑豊かで花あふれる環境を保ち、貧

乏でも清潔で礼儀正しく恥を知る文化を大切にすれば再び世界があこがれる国家になる」と持論を展開した。

第2部では、日米中韓英独6カ国の人々に対する「国・国家観」に関する国民意識アンケート結果が紹介され、東京青年会議所から政治・行政、外交・防衛、教育の3点に関し国民投票制導入、道州制導入、自国の歴史観の再評価、憲法9条改正、歴史・伝統・文化を重視した教育、奉仕活動奨励などの提言がなされた。

第3部は「国民の意思に基づいた国家の構築とは」をテーマに、パネリストに台湾総統府国策顧問・金美齡氏、慶應大学教授・小林節氏、東京新聞政治部長・菅沼堅吾氏、衆議院議員・渡辺喜美氏、コーディネーター・千葉商科大学助教授・宮崎緑氏、サブコーディネーター・第1地区担当理事・武藤誠晃君でパネルディスカッションが行われた。

「日本が真の自立国家であるか否か」では全パネリストが「ノー」と答え、小林氏は「瀋陽の事件をみても国際社会からなめられっぱなし。国家としての父性に欠けている」。金氏は「国民一人一人が国の誇りを生活の芯に据えていなければならない」と述べた。

菅沼氏は「自分の物差しで考える国にな



基調講演をするアサヒビール㈱名誉顧問・中條高德氏

る必要があるが、これが政治家にも有権者にも浸透していない」、渡辺氏は「国益に基づいて国家戦略を持っているか否かが問題だ」と語った。

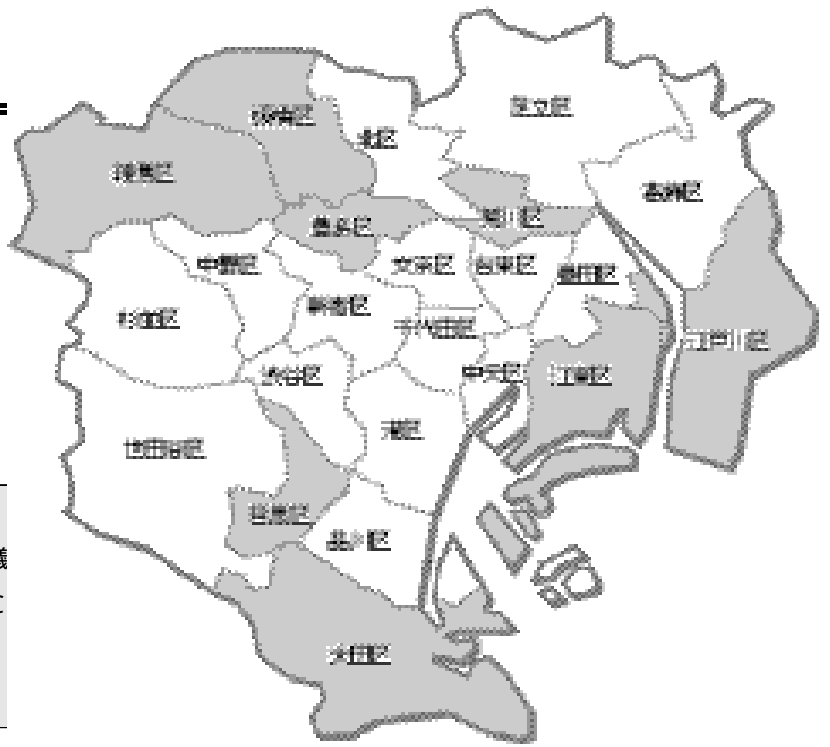
真に自立した国家になるには「政権交代で国民が主であることを知らしめる。対外的には中国、ロシア、韓国、北朝鮮に食い物にされず、対内的には政治家に納税者が食い物にされない国を作ることだ」と小林氏が主張、渡辺氏は「戦時体制化に作られた制度を改め、世代交代を進めて国益に基づいた国家戦略を立てるべきだ」と述べ、金氏は「制度を変えるだけではダメ、全ては人間個人だ。日常生活にかつて在った素晴らしい倫理観を取り戻し、公の意識を持ってものを見る目を鍛えてほしい」と訴えた。

会場からは共感の拍手が度々湧き、大きな盛り上がりを見せたシンポジウムだった。



熱のこもった討論が展開されたパネルディスカッション左から武藤誠晃君、宮崎緑氏、金美齡氏、菅沼堅吾氏、渡辺喜美氏、小林節氏

地区委員会 事業 PR



東京JC地区委員会事業は.....

それぞれ地域の問題点と特色を調査し、議論に議を重ねた上で開催にこぎつけた、いわば東京JC活動の原点がここにあります。

是非足をお運びください。

防災フェスティバルを開催

目黒区委員会 委員長 下村 旭

昨年に引き続き、目黒区委員会では10月20日の日曜日、目黒区立原町小学校において防災フェスティバルを午後1時より開催いたします。

昨年の事業では、事前の調査で判明した震災による財産的損失の大きさを区内に警鐘し、行政が対応できない災害直後の消火や救助には欠かせない「近隣交流」の重要性を行政や地域に訴えたものでした。

今年の事業も近隣交流の重要性をより浸透させるために地域に発信していきますが、地域コミュニティ育成事業のひとつとして、単に行政とジョイントするのではなく、行政と地域の意識改革を図ると同時に、志民としてのリーダーを育てることを目的に開催いたします。そのため、昨年参加した行政や各団体の他、教育機関も協力をしていただき、市民の意識改革と新たな横の連携作りを試みていきたいと思ひます。具体的には地域の教育団体である地域教育懇

談会と連携することにより学校やPTAの協力を得ました。このように地域市民と防災・教育行政を連携させることにより地域から行政へ問題提起がなされる「志民誘導型」の運動展開を導き、同時に行政の意識改革を図りたいと思ひます。

事業内容としては、目黒区で最も災害時の危険地帯と言われている原町地区において小中学生を対象に「わたしのたいせつなものをテーマとした作文や絵を事前に募集することにより子供達や保護者へ「近隣交流」の重要性を発信し、家庭内で話合う場を創出したいと思ひます。そして地域に無関心だった大人達にも本事業に参加していただき地域への関心を高めていただければと思ひます。また、事業当日には子供達の発表会と「近隣交流」の重要性をテーマとした提言を行います。同時にサバイバル体験コーナーを設置し、防災知識を身につけて頂きながら近隣交流をし

ていただきます。

このように防災を通じて「近隣交流」の重要性と連携の相乗効果を地域、行政に発信し、同時に地域のリーダーを育て「志民」として自発的な運動展開を促し、そしてこの展開を全区に広げるためのモデルケースとなる事業にしたいと考えております。防災フェスティバルへの、多くの皆様のご参加をお待ちいたしておます。



KOTO寺子屋 ～地域民間の先生 教壇に立つ～

江東区委員会 委員長 藤井達也

東京JC江東区委員会は、様々な地域に根ざした活動を続けています。

特に教育事業については、力を入れており単年度にとらわれることなく継続して事業を行ってきました。

1994年から3年間は江東区議会の本会議場を使用して、こどもの視点での議会「KOTO子ども議会」を開催し、1997年から昨年にかけての5年間では「KOTO社会体験実習」として区内の職場に延べ2000名の生徒が自らでかけ、仕事そして社会を体験してもらいました。これらの事業は行政、民間企業そして各種団体や学校、PTAの協力をもとに連携して行われ、「総合的な学習」が始まった2002年もその経験をもとに各学校にて継続開催されており、江東区委員会もアドバイス支援の立場で協力しています。

更に2002年は、教育改革元年にふさわし

い「KOTO寺子屋 ～地域民間の先生 教壇に立つ～」を9月19、20、21日に開催します。この事業は、各中学校に取り入れられた「ゆりの時間」を利用して、地域民間の講師の先生に「生徒の夢や希望 将来を考えるきっかけとなるような授業を行う事業」です。約60ものクラスに医者、弁護士、パイロット、新聞記者、プロスポーツ選手、アナウンサー、企業家、経営者、料理家など地域のボランティアとしてご協力いただける様々なジャンルの講師の方が来ていただけることになっています。

この事業は、まさに地域の学校、行政、民間企業や各種団体が、東京JC江東区委員会の呼びかけをもとに連携して実現した事業であり、江東区委員会が継続して取組

んできた地域教育事業が、ここまで幅広く多くの人の協力のもとに開催できることは大変うれしく感じています。

興味のある方、是非ひとつの講座でも見に来て下さい。





東京 JC 豊島区
委員会は、昨年度
開催いたしました
「親子サミット」また
それ以前の「豊島

わんぱく土俵広場」設立への協力といった活動を通じて、地域コミュニティの活性化に取り組んで参りました。

本年度事業「SUPPORT TOSHIMA 経済活性プログラム」は、経済の視点から地域コミュニティの活性化を目指すべく開催するものです。豊島区は、商業を産業の中心として発展してきました。池袋周辺の大店が象徴的ではありますが、100余りの商店街が区内を網羅、地域コミュニティの核としての役割を担ってきました。しかし、「資金調達」、「高齢化・後継者不足」といった社会システムに起因する問題、また単身世帯の比率が著しく増

加した区内の世帯構成の変化への対応の遅れ等を原因として、商店主は減少傾向にあります。その結果、商店街は衰退し「地域全体で子供達を育ててきた地域教育」、「住民がお互いを知り、支え合うきっかけとしての地域交流」、「地域が声を掛け合うことで維持してきた地域防犯」等の、商店街が担ってきた地域コミュニティにおける重要な役割が欠落しつつあります。

当日の企画内容は、先ず「地域コミュニティにおける商店街の必要性」を主題として、学習院大学経済学部教授豊田尚吾氏にご講演いただきます。続いて東京都との共同支援を財政的な基盤として豊島区が策定した「商店街振興プラン」を踏まえ、「地域コミュニティには人と人、世代と世代の結び付きが不可欠である」との視点から、理想的な商店街の一つの在り方について、東京 JC 豊島区委

員会からプレゼンテーションさせていただきます。最後に企画の中心となる全参加者によるワークショップを「商店街の過去、現在、未来を考える」をテーマとして実施します。

「地域コミュニティが変容して行く状況の下、今後商店街はどうあるべきか。」一緒に考えてみませんか。

SUPPORT TOSHIMA 経済活性プログラム ~ 活力あるコミュニティは活力ある商店街から ~	
開催日	2002年10月28日(月)
開催時間	18:00 ~ 21:00
開催場所	東京芸術劇場大会議室 東京都豊島区西池袋1-8-1 03-5391-2111
第1部	基調講演 豊田尚吾氏(学習院大学経済学部教授)
第2部	JCからのプレゼンテーション
第3部	全参加者によるワークショップ

大田・経済コミュニティ2002 ~ 観光が大田を変える ~

本年度、(社)東京青年会議所大田区委員会では「観光」をキーワードに、地域コミュニティの連携による地域・経済の活性化を目的としたフォーラム「大田・経済コミュニティ2002 ~ 観光が大田を変える ~」を企画しております。

「おおた」は数多くの歴史的・文化的遺産を有する伝統のまちであり、また日本経済の中核を支えてきた産業集積都市であります。現在の経済環境と21世紀を展望したとき「おおた」の魅力を広く内外に向けて発信するとともに、時代にマッチした新たな魅力づくり、地域おこしにチャレンジすることは意義のあることと確信しております。

本事業は「おおた観光協会(仮称)」の設立も視野に置き、まちづくりに寄与すると共に、区内産業を核とした多くの経済的波及効果をもたらす、「おおた」の活力と魅力を高める

ことを目的としております。同時に本事業は(社)東京青年会議所の連携事業、「地域コミュニティ育成事業」の一環としても位置付けられております。市民、地域団体、行政各々が単独で問題を解決するのではなく、お互いのことを理解し相手の立場になる、すなわち「地域のオトナ」として推進力(ちから)を結集することにより連携することの重要性を認識し、市民自らが中心となって地域づくりに取り組むためのモデルケースとしても、多方面の主體的な参加が期待できる観光というテーマは、まさに絶好の素材であると言えます。多くの皆様のご来場をお待ちしております。

開催日	2002年9月19日(木)
開催時間	18:00開場 18:30開演(21:00終了予定)
開催場所	大田区南蒲田1・20・20 大田区産業プラザPiaコンベンションホール



2001年度事業風景



ねりまエコバッグ大作戦2002

練馬区委員会では、昨年の継続事業としてグリーンコミュニケーション「ねりまエコバッグ大作戦2002」を、10月5日(日)に光が丘IMA専門店街と田柄中央商店会2ヶ所にて同日開催をします。

この事業は、「エコタウンねりま」をテーマに、行政・企業・市民が一体となって環境配慮型のまちづくりを推進し、誇りあるまちの新社会システムを構築することを目的とし、環境に対する市民意識の向上、地域商店街の活性化という環境・経済の両輪の柱をもち、市民に対してはエコバッグ配布を契機にグリーンコンシューマーとしての意識改革を呼びかけ、同時に商店街においてはエコバッグセールの開催等を行うなど、いくつかのテーマを関連させ総合的に集約しています。

当日は、ブースを設置してまずは資料配布や展示物などを使って「グリーンコンシューマ

ー」についての啓発活動を行います。次に、アンケートやクイズなど市民参加型のアトラクションを設け、楽しみながら「グリーンコンシューマー」について学んでもらいます。

上記2ヶ所のブースを無事通過すると、「エコタウンねりま」をイメージしたエバちゃんマーク入りのレジ袋に代わるナイロン製エコバックを無料配布します。当日このエコバックを使用して買い物をするとはらかのサービスが受けられるようになっています。今年は、さらにステップアップして参加した2商店街では、事業日以降も独自でエコバッグセールを開催することが決まっています。また、各商店街においても環境への先進的な取組みを実践する商店街としての特色作りをするため、勉強会を開催して環境にやさしい商品の知識を身につけ、各商店でその商品を率先して仕入れてもらうところまでシステム作りをしていく

いと考えています。この事業は決してエコバッグを配るだけの事業ではないことを実感して頂きたく、練馬区委員会メンバー同皆様のご参加をお願い申し上げます。



2001年度事業風景

開催日	2002年10月5日(日)
開催場所	光が丘IMA専門店街 田柄中央商店会

板橋区委員会では昨年、一昨年と「地域コミュニティ育成会議」を開催し、地域の主体者との連携を推進し、教育を切り口として様々な議論を重ねて来ました。本年はその2年間の事業で養った地域間連携を実際の教育現場で実行に移すべく、行政からのファーストコールに応え、板橋区教育委員会が立ち上げた「いきいき寺子屋プラン」と連携して、「地域で育む公開授業」(地域連携型教育システムの構築を目指して)と題した事業を9月21日(土)板橋区立板橋第9小学校にて9:30より開催致します。この公開授業は2時間授業で、板橋区内で活躍されている方々を講師に迎え、参加者全員(大人も含まれます)に地域コミュニティ活動を実際に体験して貰います。

1時間目はゴミ問題をテーマに環境問題に関する授業を行い、参加者に実社会での自己責任の自覚を促します。

2時間目には区内で小地域ネットワークを立ち上げられた方に体験型授業(植栽授業)を指導して頂きます。家庭・学校・地域が三位一体となり共に活動することにより、実施小学校を中心とした小地域ネットワークの立ち上げを板橋区委員会が支援します。特に大人にはこうした地域コミュニティを形成し、その中で子供の教育を考え、実践していく事の重要性を感じ取って貰おうと考えています。

また、昨年までの事業参加者にも広く呼びかけを行い、当日の参加を通じて各活動地域への参考案として持ち帰って貰います。事業を通して板橋区委員会が考える地域が主体となった教育システムとその手法を提言し、区内各地域への立ち上げを推進して行きます。

この運動により、東京青年会議所が掲げる「スクールオアシスエリア」構想の水平展開を図ると共に、板橋区委員会では本年の事業

が板橋区内で新たな地域連携型教育システム構築の第一歩となることを目指して、リーダーシップを発揮し、運動展開して行きます。



2001年度事業風景

開催日 2002年9月21日(土)
開催時間 9:30開会
開催場所 板橋区立板橋第9小学校

『第3回 EDOGAWA 社会体験実習』

江戸川区委員会では、本年も引き続き「EDOGAWA 社会体験実習」を開催します。

昨今の青少年の非行低年齢化等の問題の原因としては心の教育また地域教育との関わりが不足しているのではないかと考えられます。そこで地域の事業所で職場体験を行うことにより将来の自分自身の「夢」「目標」を考える上で大きなきっかけを作るとともに、人と人とのふれあいを通して挨拶・礼儀・人との接し方など社会における基礎となる事項を再認識・再教育することにより健全な育成を促進することを目的とします。

受け入れ企業も現代の青少年の考え方や価値観、視点を再認識し魅力ある職場、魅力ある企業づくりに役立ち、その結果「地域貢献」「社会貢献」に繋がり、学校とのコミュニケーションを通して、地域振興、まちづくり、人材育成へと発展することを望んでおり

ます。

また、本年度の新たな試みとして「受入事業所リスト」を編集・配布する事により、「総合的な学習の時間」における各校での独自開催を支援する企画も計画しております。

具体的には、「ひろげよう 地域教育 心の輪」をテーマに学校と地域のコミュニケーションを促進する為に生徒・PTAをも巻き込んだ受け入れ事業開拓や、それをサポートするための資料等の整備、各学校担当者への事業開拓説明会を行うなど、我々JCで万全のサポート体制をとり、行政・学校・地域三者を取りまとめ協力関係を構築すると共に、スクールオアシス構想を基に地域団体を含めそれぞれがより協調した連携をし、開かれた学

江戸川区委員会 委員長 鶴ヶ谷篤史

校を実現することに意義を見い出したいと考えます。

開催日程は、各学校によって異なり、すでに終了している学校もあります。今後の開催予定は、9月17日～18日にかけて3校で開催予定となっています。



『クリエイティブ ARAKAWA』

荒川区委員会 委員長 村越裕之

私ども、荒川区委員会では2000年度より活動スローガンとして「住みよい街づくり人づくり TOKYO - ARAKAWA21」を掲げて、区内各方面の方々の多大なるご協力のもとに地域ネットワーク・コミュニティの重要性と活性化を促して参りました。

土台づくりとして「クリエイティブ ARAKAWA」を継続事業として行っており、初年度は「区内児童による小学校のホームページ作成」、昨年度は「区内7小学校でLAN配線を行った～コミュニティネットデイ」そして3年目となる本年度のキーワードはIT(Information Technology = 情報技術)と地域コミュニティの活性化についての「コミュニティネットワーク」を行います。具体的には、

1. 地域ボランティアの創造
2. インターンシップによる子供達への教育

3. 地域のデジタル・デバイトの解消

を柱として、ITを通じ地域の小学校の児童と初対面で会う地域の方々・ボランティアの人達とのコミュニケーションの「場」として、小学校を地域の核、開かれた場所として提案し、実践してまいります。いわゆる東京JCが唱える「スクールオアシスエリア構想」をベースに区内外に対して提言していきたいと思っております。

詳細内容につきましては、9月21日(土)にはサンパール荒川小ホールにおいて、本事業の報告を兼ねたフォーラムを開催させて頂きます。皆様のご参加をお待ちしております。



フォーラムプログラム

- 1部 「小学校を核とした地域活性化について」
パネルディスカッション
- 2部 「小学生先生誕生までの報告会」
～インターンシップの実践～

目黒区長選挙公開討論会



写真は、昨年行われた千代田区長選挙 公開討論会風景

今年、目黒区は区長選挙の年にあたり、10月6日が投票日となっております。つきましては、区長選挙の立候補予定者に参加していただき、地域の方々による市民の会と共にリンカーンフォーラム形式による公正中立な公開討論会を開催いたします。

目黒区と区民の未来、また現在の緊迫する区財政の今後のあり方等、目黒区の課題や展開をどのように考えているのかを立候補予定者に語っていただくことにより、有権者に首長としての資質を判断していただくことを目的としております。

また、この公開討論会を通じて、目黒区の

抱える課題の論点をはっきりさせると同時に、これまで徐々に広まってきている市民の手による公開討論会というものをより一層認知していただく。特に若い世代の政治や行政に対する意識を高め、参画意識を促す事業としたいと考えております。そして、政治家だけではなく、市民が参加することによってより良い社会が築き上げられることを共通認識として持っていただくことにより『明るい豊かな社会』を実現していければと思います。

ぜひとも多くの皆様の参加をお待ちいたしております。

目黒委員会 委員長 下村 旭

開催日：2002年9月23日(月)

14：30開始 14：00開場)

開催場所：区民センターホール

共 催：(社)東京青年会議所 目黒区委員会

共 催：目黒区で公開討論会を行う市民の会

後 援：リンカーンフォーラム



沼田JC

社団法人沼田青年会議所は、創立30周年を迎え、新しい30年に向けた青少年開発事業の見直しを図り、27回行われた「作文コンクール」と7回行われた「集まれ森の探検隊」から本年度は、「森の国自然学校」を開催し、この素晴らしい自然を利用することを学校教育以外の第2の教育の場と捉え、子供たちに自然の素晴らしさを感じたり気づいてもらうだけでない自然体験型環境教育事業を7月20、21日に群馬県川場村武尊高原川場キャンプ場に開催いたしました。

「森の国自然学校」は、現代の豊かさや快適さを追求した社会において、何か忘れてしまった時代にすむ子供たちに、この自然の生と共に、私たちが共存していることの素晴らしさ、大切さを学ぶ場とし、そして、自分の住んでいるふるさとをより一層愛する心で見つめられ、来る時代を担う子供たちと共に誇りを持つふるさと創造を願っています。また、本年度は「親子の絆」をテーマにし、親子にて参加いただき、普段見れない子供たちの純粋な表情を見て気づき、今後の家庭教育の一助として頂きたいと願い開催いたしました。

「森の国自然学校」開催するにあたり、自然のプロフェッショナルである各団体に企画から参加していただきました。教育という立場から参加者を100名に限定し、当日参加者115名を各クラス(グループ)に分け、メンバーが担任となり副担任を県立尾瀬高等学校の生徒が数名になっていただきました。初日1時間目は、群馬NPO法人「防止教育コミティー」の方に、自然の中で「キャップ」というプログラムを子供と親に別れ、虐待について寸劇を交えて開催されました。また、知らない同士がコミュニケーションを取れるきっかけにもなりました。次に、東京農業大学地域環境科学部の生徒さんによる



自然ゲームが行われました。これも、親と子供にわかれ、親は子供の遊んでいる姿を観察して成長の喜びを感じていたようです。続いて、尾瀬高校の生徒さんが先生になり紙すきを行いました。要らなくなったペーパーをミキサーにかけ溶かし、はがきにしました。自然の草花を入れたり、いろいろ工夫していました。このはがきは、夜各テントにて親から子供、子供から親に対しての手紙を書いてもらいました。今でも、回収した手紙を読むと涙が

出てしまいます。1時間目終了後、夕食作りをばさんで、2時間目にナイトハイクを行いました。農大の方々によって、夜の自然へと出て、いろんなゲームをしました。その後、外にて全員で寝て星座観測をし、夜の神秘さを感じました。明けて、3時間目は、尾瀬高校の生徒さんによって、朝5時から自然観測に出かけました。前日から鼠を仕掛け、その中にねずみがいるのを見て参加者は大喜びでした。そして、自然の中で朝食後、思い出作りに4時間目として、ネイチャークラフトを行い、写真たてを作成いたしました。この後卒業式にて卒業証書

が渡され、2日間による事業は無事終了いたしました。

私がこの事業にかかわって感じたことは、自然の中で親子が共同で作業し同じ価値観で学ぶことが出来たのが最大の特徴であったと思います。自然の中で見つけた物や気づいた事等個々にたくさんありましたが本当の宝物は参加者が培った絆や共に過ごした時間であったと感じました。

(社)沼田青年会議所
jaycee開発委員会副委員長
大竹 仁



9月例会プロジェクト会議訪問

2002年8月20日 JC会館402会議室

我々にとって最も身近な存在でありながら例会が創られる課程というのは携わった者でないと意外と分からないものです。と

いうことで今回の「ちょっとお邪魔します」は間近に迫った9月例会のプロジェクト会議にお邪魔しました。今回は関東地区協議会主催のフォーラムという事もあり、喜多特別委員長の進行のもと関東地区のメンバーをも交えての開催です。本番まで20日不足という詰めのタイミングだったせいか、村田政策顧問によるJCからのプレゼンについての読み合わせなど、緊迫感漂う中で議論が展開されていました。

「例会を創る」事は数あるJCの事業の根幹であり、またひときわやりのある物が

と思います。まだ例会づくりが未経験の方は機会ある時には是非関わってみてはいかがでしょうか。

広報特別委員会 副委員長 田賀谷 浩



9月例会プロジェクト会議風景

第15回国際アカデミー報告

日本JCが主催する第15回国際アカデミーは、真夏の湘南・藤沢を中心に7月21日から28日に開催されました。この事業は世界70地域の青年会議所リーダーが集い、様々な地球規模の問題について議論し合いながら互いのリーダーシップを研鑽しあうグローバル・トレーニング・プログラムとして位置付けられています。本年度開催地ロムである(社)藤沢青年会議所の協力の下、東京JCからの出向者10名と全国からの出向者計48名は国際アカデミー委員会として知力・気力・体力の限界?に挑みつつ、参加者にとって一生に一度というこのユニークな事業を企画運営致しました。

21日(日)368名の海外参加者が藤沢市民会館に到着し、2泊のホームステイプログラムを体験。ほとんどの参加者にとって日本は初めてで、日本の生活習慣には驚きの連続の様子でした。参加者にとっては生の日本に触れる貴重な経験となり、日本のご家族にとっては遠い国々のことを身近に知る機会となりました。

23日(火)午前には海外参加者と湘南エリアの子供達との交流プログラムを開催。来年新たに出来る江ノ島の灯台下に飾られる夕陽絵を皆で作成しました。そして午後から50名の日本JCメンバーが合流し、藤沢市長を来賓にお迎えして開講式に参加。メイン講師であるアルベール・イバノンド氏(92年JCI会頭)と日本JC委員会によるオリエンテーションでウォーミングアップをした後、江ノ島ヨットハーバーでウェルカムパーティーに参加し、神奈川県下のメンバーや地域の方々と交流を潮風の中満喫しました。この日は老舗の岩本楼に宿泊し、和気藹々とした浴衣に温泉の和風情緒の中でコミュニケーションの火を点火できました。

24日(水)今回の国際アカデミーでは4つのコンセプト(和の心、土の心、革新力、コミュニケーション力)を柱にしました。日本の英知としての2つの心を共感するために鎌倉JCの協力を得て高徳院 大仏を訪問し、お茶席で「和敬静寂」の理念から他者を尊重することや澄んだ心をもつことの大切さを感じ取って頂きました。その後臨濟宗建長寺に参り座禅と精進料理を体験し、武士のごとき自己を見つめ日々精進することの意味を体得して頂きました。両プログラムは日本の武家社会成立と関係深い禅の概念と関連しており、現在の日本人の精神文化を理解する上で根源となるものでもあります。日本人参加者にとっては日本のアイデンティティを再発見する機会として、又、武士道にあるごとく、青年会議所メンバーであることの気概を新たにし、謙虚に且つ強い精神力で物事に挑戦しつづけるリーダーとしてのあり様として印象深いプログラムとなりました。午後にはメイン会場である鎌倉プリンスホテルに入り、いよいよ講師によるEntrepreneurs in Action Seminar「行動する社会起業家セミナー」が始まりました。

25日(木)26日(金)終日EIAセミナー。海外参加者5名+日本人3名の8人グループ16個に分かれ、グループディスカッションを交えながらのセミナーです。お互いの異なる価値観・考え方を交換し合いながらグループとしての意見を発表していくプロセスからは多くのことが学べます。包括力が求められると同時に、ボランティア活動の力を借りながら自分の言いたい事を伝えるために本質を伝える力も求められます。夜にはフレンドシップサロンと称した懇親会が

毎晩開催されます。今年はアフリカ、アジア、中南米、ヨーロッパの各エリアナイトと、それぞれのエリアに配属になった日本人参加者と海外参加者が一緒にサロンを企画運営しました。懇親会といえども、まだまだ国際社交の中では控えめな日本人にとって大きな修練の場になるのです。それでも楽しいことには言葉は足りないワケで、セミナーグループを超えた輪が每晚広がり、全体のムードを盛り上げてくれました。

27日(土)鎌倉から横浜に移動をする間に、慶應大学湘南キャンパスにて社会起業家プログラムに参加。藤沢市が産官学一体となって取り組んでいる新産業創出コンソーシアムの事業プランをサンプルにし、アイデアを出し合いました。創設者福沢諭吉の「実学の理念」を紹介され、行動する社会起業家への理解を実践を通じて深めてもらいました。その後一路横浜へどり、日本JCサマーコンファレンスに合流。ここでは一般メンバーも対象に「国家を超えたJCダイナミズム」と題したEIAフォーラムを3人のスピーカー(JCI会頭、日本JC直前会頭、アルベール講師)の方を中心にしながら開催しました。BARカウンターのような設えてカジュアルな新風スタイルでのフォーラムでしたが、アカデミー参加者から連携事業サンプルをプレゼンテーションするなど、国際組織としての青年会議所運動の可能性について発掘しあえる双方向性の活気あるフォーラムとなりました。夜には各LOMナイトに海外参加者を引率するインタラクティブプログラムを開催。わんぱく相撲全国大会前夜という超多忙日にも関わらず、東京JC懇親会には多くのメンバーに駆けつけて戴き、USA・アンドラ・エルサルバドル・スコットランド・ドミニカJC参加者と北茨城・とどろび白浜田辺JCの参加者をお迎えし、懇親を深めました。

28日(日)午前の最終セミナーでは各自の2003年アクションプランを提出し、行動する社会起業家として今後それぞれの地域でどのように4つのコンセプト毎に目標達成を成し遂げるか、明確にして頂く場となりました。今後のネットワークへの提案や今回の感想を述べ合った後にセミナーは閉幕。講師に対するスタンディングオベーションが部屋中に響き渡るシーンでは、講師も感激を隠せない様子でした。そして午後には各地域の正装姿やドレスにタキシードに着替えていよいよ晴れの卒業式です。全日程を終えて、参加者達はグローバルネットワークとして認められ、ピンと卒業証書をJCI会頭と日本JC会頭から授与されます。どの参加者にも自信に満ちた輝かしい笑顔が見られ、我々陣営側の全ての労が報われるシーンでもありました。竹や陣営窓を設えたステージで全員の授与の後に委員長の閉会宣言、そして全日程をふり返る映像が流れ、最後には今回のテーマソング「ベド・ゾラーの From a distance」を全員で合唱していました。一生に一度のこのアカデミーのひと時を惜しみながら、そして同志としての誓いを固めあう高揚した空気の中、本事業は閉幕しました。

私自身第10回国際アカデミーに参加した際には、力強い海外参加者のリーダーシップに大いに触発され、また新たな自己発見をし、人生の中で大きな転機とも言えるほどの影響を受けました。青年会議所を通じて多くの方々から教られた事を少しでも返してあげたいという気持ちで臨みましたが、まだまだ返しきれないという気がしています。今

年は委員長として委員会メンバーと共に昨年10月から準備にあたり、幾たびもの大きな波を皆と超えてここまで来ることができました。本気で挑む過程には様々な喜怒哀楽のシーンが一杯です。それだけに参加者同様私達委員会メンバーも互いが互いを磨き合える貴重な体験となりました。世界に奉仕するために懸念に実践することにより、互いに修練し合い、国を超えた友情を育む...国際アカデミーはJC三信条を凝縮した事業そのものです。最後になりますが、このような機会を戴き、また多くの方々のご支援ご協力を賜りましたことを深く御礼申し上げます。

出向者

委員長：山田幸恵

総括幹事：長久保伸一郎

第一小委員会(コーディネーター)：佐藤宏、原田紀子

第二小委員会(セミナー)：中尾公一、北龍照正、戸田了達

第三小委員会(国内参加者)：馬場美由紀

第四小委員会(海外参加者)：全光哲彦、木橋喜光



余談：アルベールさんはこんな人?!
ワールドカップの日本代表同様、我々の講師もフランス人。合理的、理論的、知的且つ情熱的な方で、大きな身振りで気持ちをハッキリ伝える方です。(まさにルシエ監督そのもの?!) 要求は全てハッキリ伝えられる上に発想の展開が早い! なんのって、慣れないメンバーはその対応に慣れるまでが大変!! できないことはどうしてできないのか、自分達の真意はどこにあるのかを、こちらもハッキリ伝えたいと流されるどころか振り回されてしまい! そうな場面も度々。国際交渉するのは大変だと痛感。でも最後には共に闘った?同志として私たちと講師との間にも深い絆ができました。

余談その2：大和魂は苦境で目覚める?
1週間の間に寝たのは10時間... (タンクが悪いからだ、と言われると返す言葉はないのですが、十二分に準備していてもその場対応が発生するのが宿命の事業なのです。気力・体力限界に近いつぎながらもラフティングさながらの大海を乗り越えるような中で、最後に威力を発揮したのは「暗黙のチームワーク」。これこそ日本人の底力なのか、誰が何を言うのでもなくピンと糸を張りながら黙々と役割を徹しつつ連携協力している姿は海外参加者には、アンビバブル(信じられない)な世界の様子。近頃は廃れたという大和魂も苦境では目覚めるものなのでしょうか?

IT時代のビジネスツール・写真入り名刺!

—あなたの名刺にアドレスを—

“名刺からはじまるコミュニケーション”
IT時代、E-mailがビジネスにおける情報交換
ツールとなった今、E-mail・ホームページの
アドレスを伝えるのも名刺の大切な役割です。

“写真入り”だから……使いイロイロ!
顔写真を入れて⇒営業マンの印象度アップ!
商品の写真を入れて⇒商品案内としてプチカタログに変身
お店の写真を入れて⇒ポイントカード、メンバーズカードに!!



DAIICOLOR株式会社
〒130-0015 東京都墨田区横綱 1-11-1
TEL 03-3621-7311 FAX 03-3621-8592
HPアドレス http://www.daiicolo.co.jp
E-mail: info@daiicolo.co.jp

国際政策

国際政策委員会委員長 下村 託

私たち国際政策委員会は『国際貢献ミッションin China』、『アジア太平洋国際都市会議』という2つの大きな事業を軸とし、アジアを中心とする世界各国の仲間たちと友好関係を築いてきました。

本年は『交流から貢献へ』を新たなテーマに置き、今まで培った友情を共同社会貢献活動へ発展させていく活動を行っています。

また、JCIの開催する世界会議、ASPAC(エリアB会議)への参加、来訪JC、大使館をはじめとする各種団体との交流等、様々な活動を行っています。国際政策委員会は、高い志を持ち、平和で活力ある社会を目指し、日々活発な活動を行っています。



環境政策

環境政策区委員会委員長 木嶋正佳

こんにちは、環境政策委員会です。昨今、世界ではさまざまな自然現象による災害が起こり、ニュースでもよく見かけるようになりました。今年の夏も例年より暑いと皆さん肌で感じたことでしょうか。地球の環境破壊の影響は我々が身近に感じるようになってきています。

2002年版環境白書でも「経済成長率以上に環境効率の向上を」と謳っております。我々、環境政策委員会も環境の視点から社会の構造改革を進めていく必要があると考え、行政への政策提言、環境NPOと協力しての運動展開などを日々検証しています。

しかし、活動していく中でマンパワーが不足している事が悩みの種になっています。更なる運動展開を繰り広げる為、危機感を持ち、青年経済人として真剣に環境問題に取り組む人材を環境政策委員会ではお待ちしております。



葛飾区

葛飾区委員会委員長 松本直勝

葛飾区委員会は本年度2つの事業を開催いたしました。まず、5月11日(土)に第26回わんぱく相撲葛飾区大会を、本年度は原点に戻り葛飾柴又帝釈天境内での予定でしたが当日雨の為、翌日に順延となりました。12日(日)は晴天に恵まれ無事に帝釈天での開催ができました。協賛企業、地元商店街、自治会、他団体等、地域との連携、活性化をめざし昨年10月より準備をスタート、無事に盛会に終わることができました。葛飾チームは都大会、全国大会に出場できたことも思い出になりました。

2つ目の事業はかつしかワンダースクール<教育から共育>を葛飾区立保田養護学校(千葉県安房郡保田)にて区内より、児童40名・保護者40名を集団生活を通じて体験学習をしてもらい、食生活の大事さやコミュニケーションの大切さを再認識してもらいました。また、養護学校とありますが、この学校の児童は喘息、肥満等、現代社会が生み出したともいえる子供達が多く、差別や偏見をなくすことも出来たと思います。企画内容の一つに(財)修養団伊勢道場長の中山靖雄先生、我々のOBである佐藤泰博先輩を講師にお迎えした講師勉強会が大変好評だったことが本当に嬉しく思います。行政ではできなかったことを「JCが教えてくれた」とお褒めの言葉を各方面から頂くことができました。今後は「地域教育力の推進」を進めて参



足立区

足立区委員会委員長 川村恵三

みなさんこんにちは、足立区委員会です。本年度は会員拡大と区政連絡会議を中心に活動しております。今、足立区は「常磐新線」「日暮里、舎人新線」という2つの新線の開通に向け工事が進んでいて、開業に伴う沿線の地域開発や拠点の整備もはじまっております。また、北千住駅西口再開発事業、新田、西新井地区整備計画などにより、足立区は大きく変わろうとしています。また、急激に変化する社会情勢や、長らく不況の地域経済への影響や高齢化、教育問題なども考え、当委員会では、行政の方と意見交換の場を持つことで「明るい豊かな社会」の実現に向けた、今後の事業展開の一助としていきたいと思っております。そして、「わがまち足立」に住み、働き、愛する市民として、情熱あふれる青年経済人(JCマン)として活動を行います。また3月に行った4区合同勉強会(会員拡大セミナー)など活発に会員拡大を進め、共に汗を流し、強い絆で結ばれた仲間を増やして、地域の更なる発展に力を注いで参りたいと思いま



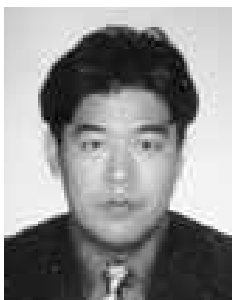
江東区

江東区委員会委員長 藤井達也

こんにちは、社会体験実習や寺子屋等、地域教育事業でおなじみの江東区委員会です。今年、江東区委員会では、総合的な学習がスタートした教育改革元年にふさわしい新事業「KOTO寺子屋 ~地域民間の先生教壇に立つ~」をきたる9月18、19、20、21日で開催します。これは江東区委員会が継続して取組んでいる地域と一体となった教育事業です。寺子屋の名の通り約60クラスで様々なジャンルの講師の方にご協力を得て、子供達の夢や希望そして将来のことを考えるきっかけとなるような授業を開催する予定で、各種団体や企業、そして学校、行政と連携してはじめて行える事業です。是非、興味のあるメンバーの方がいらっしゃいましたら見に来て下さい。

そのほかの活動として、わんぱく相撲江東区大会にも力を入れており、地区大会では毎年1000名近い生徒の参加を得て、今年も江東区代表チームは都大会優勝2年連続、全国大会出場は3年連続という優秀な成績でした。

江東区委員会は、10数名という少ないメンバーですが一致団結して、地



江戸川区

江戸川区委員会委員長 鶴ヶ谷篤史

江戸川区委員会では、5月12日(日)に行った「第26回わんぱく相撲江戸川区大会」を開催するに当たり、「プロジェクトわんぱく26」というJCメンバーだけではなく一般のボランティアの方々と一緒に実行委員会組織をつくり3ヶ月前から準備と進めて参りました。結果、ボランティアの方々の意識が非常に高く、850名以上という近年では最高の参加選手が集まったにもかかわらず、非常にスムーズに且つ盛況に終了することが出来ました。大会終了後に行った反省会でもボランティアの方々にメンバーとは違った見地から活発な意見を頂き、来年に向けてさらに発展していく期待が持てました。また、「第三回EDOGAWA社会体験実習」では、事業所バンク構想を打ち出し、各学校が体験実習を行いたいときにバンクリストと体験実習マニュアルさえ見れば実行できるシステムを構築中です。1校は5月に終了し、9月17日、18日に3校で開催されます。これらの結果を踏まえ区政連絡会議に望みます。



中野区

中野区委員会委員長 高木千明

2002年度の中野区委員会は、若いメンバーの意欲的な活動と活躍に支えられて様々な事業にチャレンジしています。まず、5月19日には26回目を数えます「わんぱく相撲中野区大会」を開催しました。次に5月22日には中野区長選挙の公開討論会を開催しました。昨年の都議会議員選挙に引き続いて開催したこともあり、中野区における公開討論会も定着の兆しを見せています。



それから9月には、「新経済市民アカデミー in 中野」というタイトルで「社会に出てからの責任と義務」をテーマとして総合的な学習の時間を活用した事業を行います。我々中野区委員会のメンバーが教師となって実際の授業で教えていく教室学習と地元企業での社会体験学習で構成しています。単なるイベントコーディネート型の手法ではなく、これまでの事業を通じて蓄積してきたプログラム作成型の手法により展開します。

今後とも我々中野区委員会の提案と地域社会のニーズとがマッチする運動を展開していきたいと思えます。そうした運動を展開していくことで、中野区委員会がより地域社会から認知され、必要とされるNPO団体に変革していけると考えています。

豊島区

豊島区委員会委員長 曾田 究

本年度の豊島区委員会は、「第25回わんぱく相撲豊島区大会」への協力と地域コミュニティ育成 2002の連携事業「SUPPORT TOSHIMA 経済活性プログラム」を活動の柱としてスタートいたしました。5月25日(土)に開催された「第25回わんぱく相撲豊島区大会」は、当委員会の他、地域のボーイスカウト、ガールスカウト、そして当委員会も設立に協力した「豊島わんぱく少年団」の保護者で実行委員会を組織し、力を合わせて大会を運営しています。高校の相撲部に所属するわんぱく力士OBも運営に参加、その頼もしい成長振りに、この大会が真に地域に根差したことを実感しました。また、今年は仲間、そして周囲への感謝の気持ちのきっかけとすべく団体戦を導入、運営に多少の戸惑いがありましたが、成果はあったと自負しています。



後半は、10月17日に開催予定の「SUPPORT TOSHIMA 経済活性プログラム」に向けて委員会の総力を結集して行くと共に、次年度以降の委員会活動の活性化という点からも新しいメンバーの増強が急務であり、全メンバーが危機感を持ってこれに臨みます。

板橋区

板橋区委員会委員長 佐藤勝也

2002年も折り返し点を過ぎ、気が付けばラストスパートの時期に突入して来ましたが、皆さんいかがお過ごしでしょうか？ 振り返れば、5月に行われたわんぱく相撲板橋区大会。選手の動員もさることながら今年は協力者を各方面に募り、ついにJCメンバーを超えた動員を図ることが出来ました。2年前まで学校の体育館で細々と大会を開催していた当時から遠い昔の様です。「地域ぐるみの大会」を目指す板橋区委員会では今後更に地域をも巻き込み、パワーアップを図って行きたいところです。



そして、9月に控えたメイン事業では2年に渡り開催してきた地コミ事業の更なるステップアップとして、板橋発、地域連携型教育システムの実現に向け、着々と準備を進めています。それに先立ち、区内で立ち上がる組織や行政からのお誘いには積極的に参加し、地域に根差したJCとして各方面に認知して頂ける様、努めております。マンパワー不足が一番の悩みですが、チーム板橋、メンバー丸となって運動して行きます。

北区

北区委員会委員長 小澤 徳

本年度の北区委員会は「地域の大人と子供がより多くの場面で出会い、交流することで、自身の存在意義を考え、人のお役に立つ喜びを感じ、地域の人々が絆を深め合う」ことを目指し活動しています。5月25日に開催された「わんぱく相撲北区大会」では、500名近いわんぱく力士が参加し、来場した友達、家族も応援合戦で大いに盛り上がりました。会場のロビーには日本の伝統文化である「日本茶」の体験コーナーもあり、来場した大人も子供もおいしいお茶とお菓子に舌鼓を打っていました。9月20日(金)には本年度のメイン事業の一つ「地域教育in北区 地域が支える教育」を開催します。地域に活動する大人たちを学校評議員を通して学校へ結びつける事業ですが、大人と子供の交流というテーマがその根底にあります。ところで、個性派ぞろいの北区委員会。ビールを飲ませたら・・・。ディスコで踊らしたら・・・。カラオケで歌わせたら・・・。百聞は一見に如かず。是非、一度我が北区委員会へ!



「JC法友会」(ジェイシーホウユウカイ)

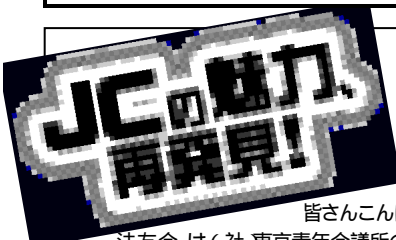
- 6月 屋形船
- 8月 暑気払い
- 10月 10周年旅行(今年)
- 12月 卒業式
- 2月 合同懇親会 等を開催しております。

その他不定期に、6大学野球、アメリカンフットボール、ラグビーなど母校の応援に行きます。

会の特徴としては、「楽しくなければ法友会ではない!」をスローガンに明るく楽しくワイワイやっています。会員みなさんとても楽しみなのか、毎回、会の始まる40分前から集まり懇談し盛り上げておます。

法政大学卒業生の皆様、この機会に久しぶりに母校の「校歌」を一緒に歌いませんか? 現役・OB問わず多くの方のご参加を心よりお待ちしております。

「JC法友会」 事務局長 土居 通明
入会お問合せ先: 土居通明(東京JC 2001年度卒)
m-doi@mse.biglobe.ne.jp まで



皆さんこんにちは。我々JC法友会」は(社 東京青年会議所の現役またはOBである事、そして、法政大学の卒業生である事を入会条件としておます。また、オブザーバー参加として他LOM会員のメンバーもいます。

入会年次、委員会、LOM、世代が違う仲間が、年に6回(隔月)の定例会に集います。

定例会の内容としては、現役、OBの隔たなく持ち回り幹事にて、毎回、ご自分のとっておきのお気に入りのお店を設営していただき、各人お互いに自慢しあっております。当日は、メンバーが各々近況を報告したり、テーマを各回決めて、たとえば、「夏の思い出(青春編)...」等を語り合っています。

2002年度の年間スケジュールとしては、
4月 花見会(法政大学の正門で)

信用と実績で30周年をめざして
御社の大いなる発展に貢献する

事業資金融資

○その他 不動産・動産・信用ローン・手形割引等いたします。
一冊でできるサブバンクをお探しでしたら・・・

03-3588-0151 (代)

AWAJI

総合リース株式会社 淡路総業株式会社
東京都目黒区(03)3588-0151
東京都港区赤坂1-8-5
http://www.awaji-sogyo.co.jp
E-mail master@awaji-sogyo.co.jp

わんぱく相撲全国大会

5年南翔太君2連覇、6年野上怜君3連覇 真夏の風物詩 - 第18回わんぱく相撲全国大会開催

「わんぱく」の夏がやってきた。第18回わんぱく相撲全国大会は、「ひろげよう 心にとどく ありがとう」を大会テーマに、7月28日(日) 全国の予選を勝ち抜いたわんぱく力士148チーム444名が参加して両国国技館で開催された。

8時40分、墨田区立寺島中学校吹奏楽部が演奏する大会曲「ファイト! ザ わんぱく相撲」に乗って選手入場。東の花道からは昨年度団体優勝・大阪城チームを先頭にオホーツク枝幸、北広島、夕張など北国勢。西の花道からははるばる海を越えて初出場のモンゴルチームを先頭に、浦添、那覇、奄美大島など南国勢が堂々の入場、444名が土俵周りに整列すると大きな拍手が湧いた。

西野大会会長が「全国のわんぱく力士諸君、日頃鍛えた力と技を国技館の土俵で思い切り発揮してくださいと挨拶。来賓祝辞に続いて秋田県南チーム・鈴木湧平君が「正々堂々闘います」と元気に選手宣誓して競技に移った。

回を重ねる毎に技も多彩になり、豪快な

上手投げ有り、土俵際のうっちゃり有り、肩透かし、すくい投げ、けたぐりと大相撲顔負け。朝早くから駆けつけた栈敷の父母、友達への応援も幟や横断幕にお揃いのTシャツと色とりどりの賑やかさだ。

初出場のモンゴルチーム、5、6年生は2回戦で敗れたものの4年生ダワードルジ・トゥムルフレグ君は小さな体でひらひらりと身をかまし徹底した足取り作戦、二回り先大きい相手を何度も土俵上でひっくり返し見事小結に輝いた。

各学年5回戦が済んだところで、わんぱく横綱土俵入り。東から昨年度5年生横綱・野上怜君(五所川原)、西からは昨年度4年生横綱・南翔太君(松戸)が登場、力強い雲竜型を披露すると満員の栈敷席から「日本一!」の声がかかり大きな拍手が贈られた。

いよいよベスト8の対戦、清めの塩を撒き塵手水を切る。選手の一挙手一投足に視線が注がれ緊張が高まる。ガツンと頭と頭がぶつかる激しい立会い、歓声と悲鳴が交差し館内の熱狂は最高潮に達した。

5年生の部で南翔太君が2連覇を果たした後、結びの一番6学年決勝は野上怜君と寺林元気君(三沢)の同県対決、激しいあたりから野上君が寄り倒して勝ち、第15回大会太田剛希君(美馬)以来の3連覇を達成した。両横綱の余りの強さに会場からは溜息も...。全取組み終了後、伊藤駿君(東京選抜チーム)がさばきも鮮やかに弓取式を行い、午後5時15分打ち出した。

閉会式では、西野大会会長、高砂大会実行副委員長から別項の入賞者に賞状、トロフィーが授与され、その度に会場から選手の健闘を称える拍手が贈られた。

午後6時、化粧回しをつけた各チーム代表が土俵上がり、佐渡ヶ嶽大会実行副委員長の音頭で威勢良く手締め、第18回わんぱく相撲全国大会は多くの名勝負と思いつく成功裡に幕を閉じた。



選手宣誓鈴木湧平君 (秋田県南チーム)



横綱左から6年野上、5年南、4年長谷山君



大関左から6年寺林、5年片岡、4年中村君



関脇左から6年本田・畑中、5年高橋・中川、4年對馬君、坂元君

個人成績一覧

	6学年	5学年	4学年
横綱	野上怜(五所川原)	南翔太(松戸)	長谷山正典(東京選抜)
大関	寺林元気(三沢)	片岡孝一(柏)	中村武雄士(宇城)
関脇	本田樹輝(弘前)	橋京平(座間)	對馬正佳(五所川原)
関脇	畑中寿斗(十和田)	中川結哉(道頓堀)	坂元元規(奄美大島)
小結	田邊直人(江東)	木立太(金沢)	ダワードルジ・トゥムルフレグ君(モンゴル)
小結	菅原健志(松山)	石新一早(那覇)	山本浩太(那覇)
小結	細谷勝広(茨城A)	阿久津智洋(矢板)	築本光紘(大阪城)
小結	坂本徹平(阿蘇)	安彦剣太郎(葛飾)	山田隆昌(江戸川)

団体成績一覧

優勝	五所川原チーム
準優勝	松戸チーム
3位	



団体優勝 五所川原チーム

第19回わんぱく相撲全国大会開催要項決定!!

申込み締め切り11月30日(土)必着

「第19回わんぱく相撲全国大会」開催要項

- 名称 / 第19回わんぱく相撲全国大会
- 主催 / 財団法人 日本相撲協会社団法人 東京青年会議所
- 開催日 / 2003年7月27日(日)
- 開催場所 / 両国国技館
- 出場資格 /
 - LOM大会(第1次予選) = 各LOM大会を開催する地域 都道府県 に在住する小学生(男女) なお、開催は2003年4月下旬~6月下旬までとする。
 - ブロック大会(第2次予選) = 各ブロック大会主催者の定めによる。(開催は2003年6月下旬までとする)
 - 全国大会 = 各地青年会議所を通じてエントリーのあった150チーム。各チーム編成は4年生1名、5年生1名、6年生1名、計3名とし、男子に限る。
- 年齢 = 1991年4月2日から1994年4月1日までの生れで、その学年に該当する小学生。
 - 6年生...1991年4月2日から1992年4月1日
 - 5年生...1992年4月2日から1993年4月1日
 - 4年生...1993年4月2日から1994年4月1日
 就学延期制度により、生年月日とその学年が異なる場合は、わんぱく相撲全国大会実行委員会「企画会議」において資料提出を求め、調査・協議の上決定する。
- 大会事務局 / 社団法人 東京青年会議所に置く。
 - 〒102-0093 東京都千代田区平河町2-14-3 青年会議所会館2F
 - TEL03-5276-6161 FAX03-5276-6160
 - (詳細お問合せは大会事務局までお願い致します)

第19回わんぱく相撲全国大会オリエンテーションのご案内

日時: 2002年9月28日(土)午後1時~3時 登録料---3000円 / 1LOM(資料代)
場所: 旭川建設労働者福祉センター3Fホール(北海道旭川市6条4丁目 TEL0166-26-1304)



わんぱく相撲
全国大会実行委員会

【問い合わせ】わんぱく相撲全国大会実行委員会
〒102-0093 東京都千代田区平河町2-14-3 青年会議所会館2F
(社)東京青年会議所内 担当: 嶋田、須之内
TEL 03-5276-6161 FAX03-5276-6160
(「わんぱく相撲」は(社)東京青年会議所の登録商標です)

